

変容するインドネシアと 現代文学の射程

インドネシア現代文学を代表する二人の作家、ラティ・クマラ氏と
エカ・クルニアワン氏を招き、主に邦訳が刊行されている作品について、
物語の歴史的背景や着想の経緯、作品に込めた思いなどをお話いただきます。
また、現在取り組んでいる作品、そして急速に変容する現代インドネシア社会
についても語っていただきます。

講演者



ラティ・クマラ

Ratih Kumala

代表作：Gadis Kretek (邦訳版『時はクロウプの甘い香りとともに』彩流社、近刊)。2023年、本作を原作としたNetflixオリジナルドラマ(邦題『シガレットガール』)が配信され、国内外で注目を集める。チョムナード女性文学賞受賞。

エカ・クルニアワン

Eka Kurniawan

代表作：Cantik itu Luka (邦訳版『美は傷』春秋社)、Lelaki Harimau (英訳版『Man Tiger』はインドネシア人作家として初めてブッカー国際賞にノミネートされる)。ワールド・リーダーズ賞、プリンス・クラウド賞などを受賞。

日時

2026年

日時

11月6日(金)
18:00~20:00

会場

上智大学四谷キャンパス
詳細はお申込みいただいた方に
後日ご案内いたします

開催方式

対面のみ

参加方法

事前登録制・参加費無料
<https://forms.gle/2NphMRpuLwtmFYea8>
(申込締切：2026年11月4日(水) 正午)

言語

インドネシア語(逐次通訳あり)

司会

福武慎太郎 (上智大学アジア文化研究所／
総合グローバル学部教授)

主催

上智大学アジア文化研究所



協力

国際交流基金 JAPAN FOUNDATION



お問合せ

i-asianc@sophia.ac.jp

書誌情報

<https://www.sairyusha.co.jp/book/b10203932.html>
<https://www.shunjusha.co.jp/book/b654800.html>

参加登録はURL
またはこちらから

